
兄妹～特別な1日～

冬空奏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

兄妹く特別な1日く

【Nコード】

N9824G

【作者名】

冬空奏

【あらすじ】

この小説は、エルとサーナの1日を描いた物です

(前書き)

エル「何なの？何故俺を呼んだ？」

君とサーナの1日だからね

エル「なッ！？おいしいい！！」

どうしたの顔を赤らめて・・・

では、どうぞ！

エル「やめてくれええ・・・」

そして、注：少し恋愛っぽくしてみました

「久しぶりだなあ、サーナ．．見ないうちに背も随分と伸びたなあ．．」

笑ってエルは言った

「お兄ちゃん．．久しぶり．．」

少し顔を赤らめながらサーナは言った

「多分、俺等カップルと間違えられてんじゃないか」

笑って言うエル

「ふえっ！？そ、そんな事ないよッ！」

顔を赤らめてサーナは言った

「にしても、もう冬だなあ．．．寒い．．」

体を震わせながらエルは言った

「そうだね．．外に出る事が少なかったから分からなかったね．．」

息で手を温めながらサーナは言った

「まあ、こんな所歩いてても仕方ない．．何処か行きたい所あるか？」

サーナに尋ねるエル

「お兄ちゃんに任せるよ．．．」

「そうか．．んじゃあ、三瓶^{さんべ}辺りを回るか．．」

サーナの方を向いてエルは言った

%\$&1時間後\$#%

「なんか、もう．．夕方だが気にせず行こうか」

「そうだね．．お兄ちゃん、う．．海の方が．．き、綺麗かなあ．．」

．．

エルに寄り添ってサーナは言った

「そうだな．．此処から5分もかからないなあ．．急ごうか！」

「へ？待ってお兄ちゃん！」

＃\$%1分後！”＃

「ハア・・・ハア・・・最近走ってなかったからきつかった・・・」
息をきらして言うエル

「でも・・・夕日は綺麗だね・・・」

目をきらめかしてサーナは言った

「そうだなあ・・・でも、俺はサーナが一番綺麗だと思うなあ・・・」

「へっ！？そそそ、そんな事ないよっ！！」

エルの言葉に照れるサーナ

「さあ、もうすぐ夕日も沈む・・・何処か違う所に行こうか・・・」

笑ってエルは言った

「そうだね・・・」

サーナは下を向きながら言った

「どうした？気分でも悪いか？」

真剣な顔でエルが言った

「ううん・・・何でもないよ・・・」

少しだけ顔を赤らめてサーナは言った

「そうか・・・しかし、腹が減ったなあ・・・この近くにサービスエリアがあるから・・・行くか？サーナ」

腹を押さえてエルは言った

「うん・・・私もお腹が空いたし・・・行こうか」

笑ってサーナは言った

＃\$%サービスエリア\$%&

「お土産が沢山あるね」

笑ってサーナは言った

「ん？何か買ってやってもいいぞ・・・10000円で買える範囲でな

・・・」

）・・・」

そう言っただけでエルはサーナに10000円を渡した

「いいの？こんなに・・・」

少し気分を沈ませてサーナは言った

「いいよ じゃあ、俺は待ってるからな・・・」

そう言つてエルは違うフロアに行った

「今、お兄ちゃん居ないのか・・・これは・・・300円かぁ・・・これ買っちゃおうと」

笑つてサーナは言つた

＃\$%2分後#＄”

「嬉しいなあ」

笑つてサーナは言つた

サーナが買ったのは、エルレイドの人形とフィギュアだった

「サーナぁ・・・待ちくたびれたぞ・・・まぁ、いいけどな」

笑つてエルは言つた

「じゃあ、何か食べに行こうか」

笑つてサーナは言つた

\$%&30分後#＄%

「夜景が綺麗だね」

「そうだなぁ・・・どうせだし橋の近くまで行くか？」

「うん！」

サーナは喜んで頷いた

\$%&橋%&\$

「綺麗・・・サービスエリアの所より随分綺麗・・・」

サーナは目をきらめかせて言つた

「そうだなぁ・・・にしても、寒いなあ・・・サーナ、寒くないかぁ？」

小刻みに震えてサーナは言つた

「うん・・・少し寒いかな・・・」

少し震えてサーナは言つた

「じゃあ、温めてあげるよ」

エルは笑つて言つた

「へっ？」

少し驚いてサーナは言つた

「ふえっ！？お、お兄ちゃん！？」

顔を赤らめてサーナは言った

それもそのはずだ。サーナにエルは抱きついたので。

「勘違いするなよ．．温めてるだけだからな．．」

少し顔を赤らめてエルは言った

「お兄ちゃん．．．」

照れながらサーナも少し強くエルを抱きしめた

「これで．．温まったか？」

笑って抱きつくのをやめてエルは言った

「うん．．でも、そろそろ帰ろうか．．」

下を向きながらサーナは言った

「そうだな．．少し待ってる、車出すからな！」

そう言っでエルは走って行った

「お兄ちゃん．．大好き．．」

そう言っでサーナはポケットに閉まっていた人形を取り出して頼ずりした。

\$\$%&10分後#\$\$%

「ん？サーナ寝ちゃったか？」

車を運転しながらエルは言った

「あいつ、何買ったんだろう．．後で見るか．．」

そう言っでエルは車を止めた

「あいつ、人形買ったのか．．俺と同じエルレイドの人形か．．
八八．．」

少し笑っでエルは元あった場所に戻した

「気持ちよさそうに寝てるなあ．．フフ．．」

\$\$%&1時間後#\$\$%

「じゃあ解散な．．また会おう．．サーナ．．」

「ばいばい．．」

エルは悲しげに帰って行った

THE．．．END

(後書き)

エル「もう・・・嫌だ・・・」

まあまあ、これ昨日寝るとき思いついたしね？

エル「マジか(汗)何故こんなのを思いついた(汗)」

知らない(汗)ではっ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9824g/>

兄妹～特別な1日～

2011年10月4日17時04分発行